

96. 震災研究報告書の発行

(調査・研究)

実施時期又は期間

平成24年10月～25年3月

対応部局及び人員

大学院地域社会研究科教員 2名
特別研究員1名

実施の背景・目的

平成23年7月より24年3月までの弘前大学震災研究連絡会において展開された震災復興および関連研究に関する情報をまとめて、『それぞれの3.11－青森から』と題し弘大出版会から出版する。

実施概要

報告書執筆者は現時点では以下の通りであり、現在は一次稿の段階にある。

刊行に寄せて（仮文章入れて提出予定）	田中重好
序文	檜 貢
I 東北地方太平洋沖地震	
東北地方太平洋沖地震の概要	小菅正裕
東北地方太平洋沖地震、青森県の被害概要と北東北の地震動被害	片岡俊一
震災とメディア－日本の中の青森県の立ち位置	檜引素夫
II 東日本大震災－弘前大学の活動	
地域社会研究科八戸調査	丹野 正
弘前大学ボランティアセンターのこれまでとこれから	李 永俊
被災地支援と復興支援	ちむ北上（北原啓司・村上早紀子）
III 東日本大震災－地域社会の震災対応	
震災被害・復興と埋蔵文化財	丸山浩治
青森県の復興計画	井口泰孝
弘前市医師会と救護活動	工藤誠治
弘前市の取り組みについて	米澤朋也
IV 弘前大学震災研究交流会	
震災研究交流会について	檜 貢
震災研究交流会一覧	
第9回田中重好「東日本大震災：社会学から何を問うか」講演録25	
交流会参加記（1）	平井太郎
交流会参加機（2）	藤田雄大

効果又は結果

本書の出版によって、弘前大学震災研究連絡会の23年度の活動内容が発信される。同時に、震災研究と情報展開において学内研究の横断的対応と市民に開放された弘前大学の動きがあきらかになり、今後の震災研究展開の礎ともなる。

今後の課題

24年度の活動を基礎とした2冊目の発行。

担当部局名

大学院地域社会研究科